

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：1832002
研究課題名（和文） 「奉為の造像」研究
研究課題名（英文） Research on religious statues that was donated for somebody who died
研究代表者
長岡 龍作(Nagaoka Ryusaku)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70189108

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学

キーワード：美術史

1. 研究計画の概要

近親者による物故者のための造像を「奉為の造像」と位置づけ、広く東アジアに分布する事例を対象に、そこに通底する宗教思想を踏まえて分析し、その意味と意義を解明する。その上で、そのような理念が日本においてどのように造像に結実したのかを考察する。

2. 研究の進捗状況

(1) 中国現地調査

①2006年9月調査（14日間）

〔陝西省〕碑林博物館、陝西省歴史博物館、陝西考古研究所、青龍寺（以上西安市）、慶山寺（西安市臨潼区）、法門寺（扶鳳県）、慈善寺石窟、九成宮遺跡（麟遊県）、彬県大仏寺（彬県）、葯王山石窟、耀県博物館、神徳寺遺址（以上耀県）、〔河南省〕龍門石窟、古墓博物館（以上洛陽市）、河南省博物院（鄭州）、相国寺、鉄塔（開封）

②2007年9月調査（10日間）

〔山西省〕山西省博物院、五台山（顕通寺・菩薩頂・塔院寺）、〔河北省〕曲陽・北嶽廟・修徳寺址、定州（定州市博物館・開元寺塔・浄衆院・静志寺地宮）、正定（天寧寺木塔、龍興寺、龍蔵寺址、開元寺塔）、〔山東省〕博興（博興県博物館、興国寺石造像）、東営市博物館、青州（青州市博物館、逢山県勝福寺址）、臨ク県博物館、安丘（安丘市博物館・董家莊漢墓）、諸城市博物館。

③2008年9月調査（9日間）

〔甘肅省〕敦煌莫高窟、敦煌博物館、西千仏洞、榆林窟、文殊山石窟、馬蹄寺石窟、金塔寺石窟、甘肅省博物館。

④調査分析

それぞれにおいて、石窟・単独造像・造像碑を調査し、銘文の読解と表現の分析をおこな

った。その結果、「奉為」造像の実例を多数収集し得た。

(2) 日本国内調査

古代奉為造像に加え、経塚と近世肖像彫刻についての調査をおこなった。調査地・物件は以下の通り。立石寺（山形）、円福寺（白鷹町）、戸沢家墓所（新庄）、如法寺（郡山）、龍泉寺・二本松市歴史資料館・畑田地区（二本松）、華嚴寺（揖斐郡揖斐川町）、河口頓宮跡（津市白山町）、伊勢神宮（伊勢市）、徳川家康像（東京・芝東照宮）、徳川家康像（京都・南禅寺）、豊臣秀吉像・高台院像（京都・高台寺）、伊達政宗像（宮城・瑞巖寺）。以上を通して、古代的「奉為」造像の中世ならびに近世的変容について見通しを得た。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

当初の計画に沿い調査を順調におこない、「奉為」造像の実例収集に実績を上げたことに加え、5. にあげたとおり、その成果をすでに論文・学会発表・図書を通して多数発表でき、さらには、当初の計画以上に、日本国内の中世・近世の「奉為」造像へと研究範囲を拡大できたため。

4. 今後の研究の推進方策

本年度は計画の最終年度にあたるため、未調査の中国江南地方と韓国の調査をおこない、計画の達成を目指す。また、その成果を報告書として刊行する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

- ①長岡龍作「古代日本の「生身」観と造像」『美術史学』29号、2009年、35-60頁、査読無
- ②泉 武夫「北野天満宮蔵「舞楽図」衝立について—古代末期～中世初期の楽舞の状況から—」『美術史学』29、2009年、1-33頁、査読無
- ③長岡龍作「救済と表象—「中尊寺供養願文」—寺院に投影された意味について」『季刊東北学』16号、2008年、66-83頁、査読無
- ④長岡龍作「彼岸・因果・表象—仏教美術への開かれたアプローチとして」『日本仏教総合研究』6号 2008年、31-52頁、査読有
- ⑤泉 武夫「景教聖像の可能性—栖雲寺藏傳虚空藏畫像について」『国華』1330号、2006年、7-17頁、査読有
- ⑥泉 武夫「笠置寺磨崖線刻菩薩像の制作時期をめぐって」『京都国立博物館学叢』28、2006年、25-42頁、査読無

〔学会発表〕(計 5 件)

- ①長岡龍作「美術から見た平泉の信仰—「表象」の仏教的意味を中心に」シンポジウム「都市平泉と列島の中世」、2008年7月26日、平泉ホテル武蔵坊
- ②長岡龍作「仏教における「靈験」—仏が感応する場と表象」公開・国際シンポジウム「死生と造形文化Ⅱ 礼拝像と奇跡 東西比較の試み」、2008年5月31日、東京大学
- ③長岡龍作「彼岸・因果・表象—仏教美術への開かれたアプローチとして」日本仏教総合研究学会、2007年12月9日、山形大学
- ④長岡龍作「彼岸と表象—仏教美術の機能についての基礎的考察」美術史学会全国大会招待発表、2007年5月25日、九州大学
- ⑤泉 武夫「仏教美術史研究の近年の動向と隣接諸学との接点」、日本宗教文化史学会第十回記念大会シンポジウム招待講演、2006年11月25日、京大会館

〔図書〕(計 2 件)

- ①長岡龍作『日本の仏像 飛鳥・白鳳・天平の祈りと美』、中央公論新社、2009年、274頁
- ②泉 武夫『国宝 六道絵』、中央公論美術出版、2007年、376頁

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

〔その他〕